

# 第4学年 社会科学学習指導案

1 単元名 特色ある地いきと人々の暮らし

2 単元指導計画（本時に関連する主な時間）

次	時	主な学習内容
2	8	美濃市で和紙作りがさかんになった理由が、近くに川が流れていることや和紙の原料が豊富にとれたことなど、美濃市が和紙作りにふさわしい地域であったことを理解する。
	9	手すき和紙を作る職人が減る中、美濃和紙を作り続ける鈴木さんの願いを考えることで、1300年続く伝統を守る価値について考える。
	10	後継者問題を解決するために、美濃市が取り組んでいること（研修会や和紙作り体験）を理解する。

3 本時について（9/16）

(1) ねらい

手すき和紙を作っている家の数が減少している中で鈴木さんが和紙を作る理由を調べる活動を通して、美濃和紙は長い歴史のある伝統文化で、長年、大切にされてきた文化財であることに気づき、後世にも美濃和紙を残していきたいという鈴木さんの願いを考えることができる。

(2) 評価規準

手すき和紙を作っている家の数が減っている中、和紙を作る鈴木さんには、「長い伝統ある和紙作りの技術を後世に残したい」という願いがあることを考えている。（思考・判断・表現）

(3) 学習展開

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）	
導入	1 導入資料を提示する。 ・ 手すき和紙を作っている家の数が減少している。	【ICT活用の工夫】 ・ 大型提示装置で導入資料のグラフの一部を隠して提示し、手すき和紙職人の人数がどのように変化したのかを予想できるようにしてから、人数の変化を確認する。	
	2 学習問題を確認する。 手すき和紙を作っている家の数が減っているのに、なぜ鈴木さんは和紙を作るのだろう。		
展開	3 課題に対する予想をする。 ・ 美濃和紙作りが好きだから。	・ 児童のつぶやきや反応から、手すき和紙を作っている家の数が減っていることを全体で確認する。	
	4 個人で追究し、全体交流する。		
	①鈴木さんの年表 ・ 鈴木さんは、サラリーマンの仕事の後に、60歳から和紙作りを始めている。		②鈴木さんの話 ・ 美濃和紙は1300年の歴史がある。 ・ 現在では、他県からも和紙を作りたいという人が来ている。
	・ 鈴木さんの家では、和紙作りの技術が受け継がれている。		・ 他県から人が来るということは、それだけ美濃和紙は価値がある。
	・ 美濃和紙には1300年の歴史があり、鈴木さんは、これからも和紙作りの伝統を残していきたいと思っている。		
終末	5 深めの発問をする。 なぜ、鈴木さんは退職後（60歳）から和紙作りを始めたのだろう？ ・ 日本全国から和紙を作りに来る人が美濃和紙の伝統を守ろうとしている。だから、美濃市に住んでいる自分たちこそ、この伝統を守らないといけない。	【ICT活用の工夫】 ・ 協働学習支援ツールの画面一覧機能を活用して、児童が資料を読み取る内容や状況を確認し、読み取りが難しい児童には、机間指導で支援する。  【ICT活用の工夫】 ・ 全体交流で、美濃和紙には長い歴史があり、長年大切にされてきたものであることを理解した上で、鈴木さんの願いを考えられるように、「鈴木さんの願い」の動画を視聴する。 ・ 児童が動画の音声を適切に聞き取ることができるように、各自のICT端末でヘッドセットを用いて視聴する。	
	6 まとめる。 手すき和紙を作っている家の数が減っているのに、鈴木さんが和紙を作る理由は、1300年も続く長い歴史のある和紙作りの伝統をずっと残したいと願っているから。だから、退職後に和紙作りを始め、1300年続いた伝統を守ろうとしている。 伊深町でも、郷土料理を作って、地域に広めている「伊深ごはん研究会」という人たちがいる。この人たちも鈴木さんと同じように、伊深の伝統を大事にしていると思うから、私も伊深町の郷土料理について調べてみたい。		
	・ 児童が書いた「まとめ」の中で、伝統を守ろうとする職人の願いを自分事として捉えているかを確認する。		